

白屋の生き物かわら版 第6号

～ 新緑の季節がやってまいりました ～



五月晴れの日光を浴びて、新緑が山々に映える季節になりました。野に山に里に、植物が花盛りになると、昆虫たちも活動を開始します。5月4日に行った自然生態調査で見つかった植物と昆虫をいくつかご紹介いたします。



アカマツ(め花)

松の木に房が生えているのを見たことはありませんか？房の根元にお花、房の頂点にめ花がついています。では、お花とめ花の間には…？ここは今年の葉が出てくるところです。め花をよく観察すると、松ぼっくりの形をしていることが分かります。め花が受粉し、成熟す



アキグミ

秋に実をつけることからアキグミと名づけられました。花は春に咲きます。トラフシジミやテングチョウがこの花の蜜を吸いに訪れます。他のグミ類の実はラグビーボール型なのに対して、アキグミは球形に近い形をしています。食用にもなりますが、タンニンが多く含まれるた



キリギリス(幼虫)

ギーッ・チョッ・ギーッ・チョッと鳴くバッタの仲間です。幼虫の背中にラインが2本入るのがキリギリスで、ラインが1本入るのがヤブキリです。今はまだ幼虫ですが、梅雨明けのころにはその美声を聞かせてくれることでしょう。

告知:9/29 吉野川紀の川しらべ隊 白屋の鳴く虫をしらべよう



オトシブミのゆりかご

オトシブミは葉っぱを丸めてゆりかごを作ります。このゆりかごが地面に落ちている様子が、平安時代の貴族のラブレター“落し文”に似ていることから、オトシブミという名前になりました。ゆりかごの中には卵が産み付けてあり、卵からかえった幼虫はゆりかごを食べてどんどん成

人の生活に寄り添ってきた植物



シラン

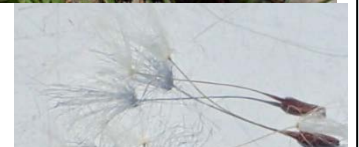
和蘭の仲間、川上村にも自生しています。シランの仲間は花がきれいなので、自生個体を庭先に持ってきて栽培をしていたようです。一昔前は、山から容易に自生個体を拝借してこられる

忍び寄る脅威



写真上: 花

写真下: タネ



アカミタンポポ

環境省指定要注意外来生物で、日本の侵略的外来種ワースト 100 に選定されています。セイヨウタンポポに似ていますが、綿毛の根元、種の部分